

「時刻と時間」は日常生活の中でとても多く活用されています。しかし、「時間」は視覚的に見えるものではなく、イメージが持ちにくいいため、児童生徒が学習していく上でつまずきやすい単元となっているのではないのでしょうか。

「時計を読む」では、特にアナログ時計の針の動きによって「時間の流れ」が視覚的に捉えやすくなり、また、針の位置や角度によって「時間の量が」が感覚的にイメージしやすくなります。

「時間の概念を身につける」においては、「1日は 24 時間」「1時間は 60 分」のように 10 進法ではないため、児童生徒たちにとってはつまずきやすいポイントの1つとなっています。また、「午前」と「午後」の 12 時間制と 24 時間制など複雑なルールがあり、「時間の概念」を児童生徒たちが身につけることは容易ではありません。そのため、アナログ時計を用いて、日常生活の中で周囲の大人が言葉かけを行い、定着させていく必要があります。

「時間の計算」では、「○分前(△分後)は何時何分でしょう？」など実践的な課題に取り組むことにより、日常生活の中で「時刻と時間」と活用していく力を身につけることができます。

ここでは、「時計に親しむ」「時計を読む」「時間の計算」の3つの項目にわけて、教材を紹介します。また、「時間の概念を身につける」については、3つの項目全てに関わっています。